

気仙沼・本吉圏域

(気仙沼市、南三陸町)

～観て、食べて、感じる 三陸SDGsの旅～

気仙沼・本吉圏域について

- 気仙沼・本吉圏域は、県北東端に位置し南北約 50 kmと縦に長い形状となっている。沿岸部はリアス海岸の特徴的な地形をしており、複雑な隆伏や深く入り組んだ海岸線が風光明媚な景観を形成し、三陸復興国立公園に指定されている。
- 三陸沖の豊かな漁場に恵まれ、カツオ、メカジキ、カキ、タコなど1年を通して様々な魚介類が水揚げされるほか、フカヒレ、塩辛、メカブなどの水産加工品の産地としても有名。
- 東日本大震災により甚大な被害を受けたが、様々な復興の取組により、新しいまちづくりが進んでいる。
- 管内人口は、73,372 人（令和2年国勢調査）で、前回平成27年国勢調査と比較して3,986人減少し、減少率は5.15%となっている。これは、県全体同値の1.37%を大きく上回っている。

圏域の観光の現状

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光客の減少など大きな影響が生じている。
- 圏域内には魅力的な観光資源が広く点在し、NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」をはじめとするドラマや映画の舞台にもなっており知名度が高い。
- 三陸沿岸道路の全線開通等により、車による圏域へのアクセスが大幅に向上し、隣接する岩手県等との往来も増えている。
- インバウンドの宿泊者数は、県全体のわずか0.5%程度である。

圏域の観光の課題

- ポストコロナを見据えて、新たな観光コンテンツの創出や既存の観光コンテンツの見直し・改良に取り組むことが必要
- 特定の地域をピンポイントで訪問し日帰りする観光客の割合が高く、三陸沿岸道路の開通後その傾向が強まっていることから、観光客の圏域周遊と長時間滞在を促すための工夫が必要
- 自家用車以外による交通アクセス（圏域内・外）については、観光客にとって未だ利用しやすいとは言えない状況であることから、改善に向けた方策が必要
- 将来の本格的なインバウンド誘致を見据えた方策が必要

圏域の施策の方向性及び取組

(1) 新しい生活様式やSDGsなど社会情勢の変化に適応した観光コンテンツづくり

- 当圏域の観光資源であるマリンスポーツ、化石発掘体験、キャンプなど、コロナ禍で人気のアウトドアコンテンツの一層の充実
- アクティビティ・自然・異文化体験を要素とした「SDGs×アドベンチャーツーリズム」推進による持続可能な観光地づくりなど、当圏域ならではの観光コンテンツづくり
- 圏域内や近隣地域の観光コンテンツを震災遺構、食、歴史・文化など共通のテーマで組み合わせて魅力度を高めた旅行商品づくり

(2) 観光客の滞留性や周遊性を向上させるための観光プロモーションやイベントの実施

- 圏域全体さらには隣接の観光地等と連携した区域により、広く「面」で総合的に地域の魅力を発信し、観光客の滞留性や周遊性の向上につなげる観光プロモーション
- 気嵐、星空観測、魚市場見学など当圏域ならではの夜間・早朝のイベントを組み込んだ、宿泊観光客増加のためのツアーづくり
- ウェブサイトや各種SNSなどのデジタル媒体と、雑誌、フリーペーパー、ドライブマップなどアナログ媒体のそれぞれのメリットを活用した、複合的かつ広域的な情報発信

(3) 圏域内外の交通アクセスの改善

- 関係者による(仮称)接続交通検討会議の設置と改善策の検討

(4) ポストコロナを見据えたインバウンド対策

- 外国人に人気の高いサイクルツーリズムやトレイルなどアウトドアアクティビティの充実や、教育旅行誘致のための震災遺構や伝承館などを組み入れた旅行商品の検討



気嵐と気仙沼湾横断橋
(気仙沼市)



中橋 (南三陸復興祈念公園)
(南三陸町)



神明崎 浮見堂
(気仙沼市)

